

自分の弱点を可能な限り改善する

西口 阿里沙
(既修・3回目)

司法試験に落ちるか・落ちないかの違いは、その人に「不合格の原因」があるか・ないか、の差であると思っています。

そして、司法試験は**相対評価**ですから、「不合格の原因」とは、**全受験生との差**によって生じます。つまり、「不合格の原因」とは、**全受験生の水準に達しない部分が多いこと**、すなわち、**弱点（他人よりも劣っている点）が多い人が、不合格となります。**

そのため、**弱点を多く改善することが、合格に直結する、**と思います。

そこで、弱点を多く改善し合格するために、大事なことは、①自分を客観視して、自分の弱点を把握すること、②自分の弱点を改善するための、目的意識のある勉強方法を行っていること、この2つであると考えます。

②の目的意識のある勉強方法を行うためには、結果から逆算して考えることが大事です。

もしあなたがきちんと勉強しているのに成績が伸び悩んでいるのなら、500%、勉強方法が間違っています。(1回目・2回目の司法試験を落ちた私が現にそうだったからです)

その勉強方法に目的意識があるのか、ないのかを判別したいのならば、**なぜ自分がその勉強方法をとるのか、ということが説明できる程度の認識を有する必要がある**と思います。(勉強は司法試験に合格するために行うわけです。勉強は作業ではありません。)

例えば、私は、過去問を何回解いても、途中答案になることが多かったです。

途中答案ということは、どこかに時間をかけすぎているということなので、㊦問題文を読む時間、㊧答案構成、㊨実際に書いている時間、それぞれを科目ごとに、時間を測りました。そして、それぞれの時間をどうやったら削減できるのかを考えました。逆に、ここはどう頑張っても時間が削減できない、という点も把握しました。

そして、具体的な対策ができたなら、まとめノートとして整理し、試験本番の直前に読み込みました。このノートは何度も見返し、自分が犯しやすい失敗を常に意識しました。

また、私は、メリハリのある答案を書くことができず、点数が伸びませんでした。

メリハリがついていないのは、出題趣旨が分かっていないからだ気づきました。

そのため、過去問を解く際に、㊦どう問題文を読めば出題趣旨に気づきやすくなるのかを工夫し、㊧日々の勉強の中で問題の所在を考えることで、司法試験の問題の所在たる出題趣旨にも気付くことができるようになり、㊨冗長的でない参考答案の特徴をパクリ、…etc等、

分析を行いました。

今後、いろんな人からアドバイスを聞く機会があるかと思いますが、人それぞれの現状・知識の量は全く違います。また、「過去問」の勉強方法も、千差万別です。ですので、**先輩のアドバイスを聞く際は、その先輩がどういった意味で、その勉強方法を言ったのか、というバックグラウンドを確認**することが必要であると思います。この確認を怠ることは、目的意識のない勉強方法につながると思います。

常に、自分を客観的に分析し、弱点と向き合っていれば、絶対に合格できると思います。心が折れそうな時もあるかと思いますが、是非頑張ってください。皆さんなら、絶対に合格できると信じています。